

米空軍グローバルホークの横田飛行場への一時展開(暫定措置)について

一時展開の経緯

- グアムを拠点に運用されている米空軍グローバルホークは、平成25(2013年)10月の日米「2+2」共同発表において、平成26(2014)年から日本においてローテーションによる展開を行う旨記述。その後の日米協議を踏まえ、夏季における台風等悪天候の影響を回避し、より安定的な運用を確保するため、平成26年から三沢飛行場へ一時展開を開始。
- 平成29(2017)年は、米軍三沢飛行場において5月から7月までの間、滑走路改修工事により滑走路が閉鎖されるため同飛行場へ一時展開が行えないことから、暫定措置として横田飛行場に一時展開するもの。

グローバルホークの概要

- 情報収集、警戒監視、偵察を任務とする米空軍保有の高高度滞空型無人偵察機
その特徴は、以下のとおり
 - ・画像等の情報収集を実施
 - ・攻撃能力なし
 - ・高度5万フィート(約1万5千m)以上で航行
 - ・無線通信及び衛星通信により地上から操縦



全幅	約40 ^{ft}
全長	約15 ^{ft}
全高	約5 ^{ft}
滞空時間	約36時間
最大高度	約65,000ft

横田飛行場における一時展開(暫定措置)の概要

- 展開部隊 : 第9偵察航空団第69偵察航空群第1分遣隊(グアム アンダーセン空軍基地所属)
- 展開機数等 : グローバルホーク×5機(ブロック30型×2機、ブロック40型×3機)、そのほか、機体を操縦する地上装置×1基、パイロット及び整備士 約110名
- 展開期間 : 平成29年5月1日～同年10月31日までを予定。ただし、天候等の影響により変更される可能性あり
- 運用頻度等 : 離着陸時は横田飛行場に設置される地上装置から遠隔で操縦し、離陸後十分な高度に至った後は米本土から操縦(三沢展開時と同様)
- その他 : ブロック30型と40型はエンジンを含め、機体構造は同様であり、搭載する機器のみ異なる(異なる機能を有する情報収集用機器が積載)